

(2) 令和6年度 学校自己評価表				(中間・最終)				学校名 三原市立田野浦小学校				校番(6)					
a 学校教育目標		かしこく なかよく げんきよく		b 経営理念 ミッション・ビジョン		【ミッション(自校の使命)】 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン(自校の将来像)】 児童が満足する学校、保護者が安心する学校、地域が誇りに思う学校、そして教職員が生き甲斐や行き甲斐を感じる学校。											
評価計画						自己評価						改善方策		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評 価			コメント			
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ				
確かな学力	すすんで学び、よく考え豊かに表現する学力を育てる。	基礎・基本の学力向上	○主体的な学びにつながる授業の実施 ・対話的で深い学びを生み出す発問構成の工夫 ・ドリルタイムと読み上げ計算による基礎学力の定着 ・ICTの活用	【各種学力調査】 ①単元末テスト(算数)の正答率 85% ②全国学力・学習状況調査の正答率、全国平均以上 100% ③NRT(学力テスト)の正答率、全国平均以上 100% 【児童アンケート】 ①「算数の授業が楽しい」 85% ②「算数の授業がよく分かる」 85%	85% 【100%】	85% 【96%】		100% 【96%】	B	【各種学力調査】 ①知識・技能87% 思考・判断・表現79% ②国語66(対全国比-1.8)97% 算数60(対全国比-3.6)94% ③国語47.4(対全国比-2.6)95% 算数48.2(対全国比-1.8)96% 理科47.4(対全国比-2.6)95% 【児童アンケート】 ①85% ②88% ●NRTは昨年度を下回る結果となった。 ●全国学力学習状況調査は、全国平均には届かなかったものの、昨年度より向上した。	○基本的な学力の向上に向けて以下の取組を継続して行う。 ・ユニバーサルデザインの授業づくり ・ICT機器の効果的な活用 ・ドリルタイムと読み上げ算による学習事項の定着の徹底 ・「放課後学習」の実施 ・学び合いの言葉を用いた授業づくり ○全国学力学習状況調査の結果分析を反映させた授業づくり、5・6年生の計画的補充学習を実施する。	○			・基礎基本の学力向上のため、絶対的な学習量を増やすことが大切です。 ・児童のつまずきを把握し、その解決を図る授業が児童のやる気や向上心につながります。改善方策に期待します。		
			○学習規律の徹底(4月中に達成) ・チャイムの順守 ・学習環境の整備(机の上、筆箱) ・返事の定着(名前を呼ばれたら「はい」)	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「授業の始まりと終わりのチャイムを守っていますか。」 ②「机の上や筆箱など、身の回りを整えて学習していますか。」 ③「名前を呼ばれたら返事をしていますか。」	95%	95%		100%	A	【児童アンケート】 ①96% ②94% ③94% ○昨年度より向上していることから、数年間継続して取り組んできた成果が出ていると考えられる。 ●3項目中2項目で達成ができなかった。	○学習規律の重点店取組項目と期間を設定し、全校で統一した指導を行うとともに、取組帰化に外にも継続して取り組む。						
豊かな心	地域を愛する心を持つとともに、夢や目標をかなえるための生活習慣を身に付けさせる。	完全不登校の根絶	○不登校の未然防止 ・年に2回実施するQ-Uを基に、構成的グループエンカウンターの計画的な実施 ・全職員による児童実態の連携実施 ・関係機関との協動的な連携実施	①不登校児童、9月末7人以下。1月末13人以下。 ②「学級生活満足群」に属する児童の割合 65%以上。 「学級生活不満足群」に属する児童の割合 8%以下。 「要支援群」に属する児童の割合2%以下。	85%	87%		102%	A	①昨年度7名(9月末) 今年度8名(9月末) ②学級生活満足群 55.7% 学級生活不満足群 5.4% 要支援群 0.5% ○学校生活に満足している児童の割合が減少したが、不満を持っている児童も減少した。 ●不登校児童8名中3名は、SRへ登校することも難しい実態がある。 ●学校瀬克に不満を持っている児童が、40名いる。	○学校生活不満足群や要支援群に属する児童を抽出し、アンケート結果から要因分析を行う。 ○要因分析をもとに、集団づくりについてK-13法を用いて、取組を決定する。その際、構成的グループエンカウンターについても、学年ごとに毎月の計画表を再考し、見直しをもった集団づくりを行う。 ○不登校児童の減少に向け、不登校対策委員会において、SRや心の相談室、スクールS等と連携するとともに、電話連絡や定期的な家庭訪問により、学校とのつながりを継続す	○			・児童と学校の関係を切らさないようにお願いします。 ・不登校児童は全体的に少なく、よい学級集団づくりが行われているので、継続してください。		
			○挨拶あふれる学校づくり ・児童会役員による挨拶運動の実施 ・挨拶目標づくり、挨拶週間の実施、振り返り(学期に一回)	【児童・保護者・教員アンケートの肯定的評価】 ①「相手を意識した挨拶ができていますか。」	85%	80%		94%	B	【児童・保護者・教職員アンケート】 ①80.0%(児童82.8%・保護者66.3%・教職員91%) ○教職員主体の「あいさつまんになろう」の取組を通して、相手を意識した挨拶が広がりがつつある。また、TPOに応じた挨拶も意識し始めた。 ●取組が終わると、教職員の声かけが減少し、児童の意欲も下がってしまう。	○挨拶啓発に向けた取組実施期間以外にも、全校放送を活用し、児童の姿を評価し、地域や来校者など、相手を意識した挨拶実施への意欲向上を図る。 ○挨拶の取組がマンネリ化しないように、内容を少しずつ変えて挨拶運動を定期的に行う。 ○参観日を活用し、取組について保護者への啓発を行う。						
健やかな体	体力を高め、感染症予防に対する高い意識を育てる。	新体力テスト結果の向上	○運動能力の向上 ・運動量を確保する体育授業の工夫を共有化 ・4月と11月の長座体前屈計測で向上率確認 ・年間を通じて外遊びや縄跳びなどの啓発	【4月・11月の長座体前屈の記録】 ①県及び全国平均値以上 75%以上	75%	53%		71%	C	【長座体前屈】 ①4月46.9%、7月53.4% ○7月は4月よりも6.5%上昇した。 ○柔軟性に課題のある児童の分析・追跡調査を行い、月1回集まって、記録が伸びたことを誉め合い、意欲を高めた。 ●目標値を下回っており、依然として柔軟性に課題がある。	○柔軟性の向上に効果的な(ベア)ストレッチを職員間で確認し、体育館にストレッチカードを設置するとともに、体育の時間に継続的に活用する。 ○ストレッチ・筋トレの取組カードを児童一人ひとりに配付し、自宅でも取り組みを行って記録し、目標を持たせる。	○			・取組により、成果が出ているため、体を動かす楽しさを実感できる指導を継続してください。 ・業間体育などで、毎日一斉に運動することも視野に入れてください。		
			○病気や感染症予防に対する行動の向上 ・ハンカチ持参の強化週間を設定 ・ICTを活用した手洗い方法の指導 ・授業や各種便りを活用した啓発	【ハンカチ点検】 ①ハンカチ持参率 90%以上 【児童意識調査の肯定的評価】 ①手洗い実施、ハンカチ持参に 関する肯定的評価 90%以上	90%	96%		106%	A	【ハンカチ点検】 ①96.1% 【児童アンケート】 ①91.6% ●できていない児童は固定化してきている。	○ハンカチ持参とともに、ランドセルに予備を入れておくことを、参観日等で保護者に啓発していく。 ○固定化している児童には担任から連絡する。						
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに、15年間を見据えた教育を行う。	働き方改革の推進	○時間外勤務月45時間以内を完全実施 ・月間勤務時間合計の確認、助言 ・行事、事務作業の計画、精選 ・教材の共有化	【超過勤務 月45時間以内】 ①在校時間一覧表による超過勤務時間 【教職員アンケートの肯定的評価】 ①「現在、生き甲斐や行き甲斐を感じることができている。」	90%	82%		91%	B	【超過勤務 月45時間以内】 ①82.1% ○7～9月は時間外在校時間が35時間を超えたとき、PC上に45時間までの残り時間を示したことで、時間を意識し、計画的に勤務することができた。 ●4～6月は年度初め、行事等に加え、授業準備、生徒指導案件により、時間外在校時間を1～2時間増加している。 【教職員アンケート】 ①82% ○学習指導、生徒指導、学級経営について、ほとんどの教職員が適切に指導できている。	○授業準備の確保をするため、ICTの掲示板を活用した会議時間の削減、行事等の精選を行うとともに、計画的な業務遂行の指導を継続する。	○			・教職員が時間を意識して業務が行われていることがよく分かりました。 ・教職員同士の関係性がさらに深まることを期待します。		
			○地域に信頼される学校づくり ・年間計画及び、時期に応じた服務研修実施 ・1年に2回、保護者・児童アンケート実施	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「田野浦小学校に通ってよかったと思いますか。」 【保護者アンケートの肯定的評価】 ①「学校は安心して子どもを通わせることができる教育を行っている。」	95%	96%		101%	A	【児童アンケート】①96% 【保護者アンケート】96% ○服務研修は計画的に実行できている。 ○がっつり対応行事や参観日、校外学習等の取組やふり振り返り等を行うことで、達成感や自己肯定感を高めることができた。 ○生徒指導上の問題が起きたときや気になる事案がある際には、早目に保護者と連携を取る体制ができており、保護者への安心感にもつながっていると考ええる。 ●4%の児童が、学校に対して不安や不満な気持ちを持っている。 ●HPの更新が少ないので、学校のことが分かりにくいとアンケートに記述した家庭がある。	○学校に対する不安な気持ちを持っている児童の実態把握を行い、その児童や学級集団への適切な取組を組織的に行う。 ○情報教育担当者と連携しHPを更新したり、「すぐーる」を活用したりして、保護者が学校行事を確認しやすいようにする。						
本年度の重点目標については◎印で示す						【 j : 自己評価 評価】 A : 1 0 0 ≦ (目標達成)						B : 8 0 ≦ (ほぼ達成) < 1 0 0					
						【 i : 学校関係者評価 評価】 イ : 自己評価は適正である。 ロ : 自己評価は適正でない。 ハ : 分からない。											